

日本社会心理学会第61回大会(2020)
演題番号:413

要求という行為を曖昧にすることの意味(2)

「要求意図についての認識」と「承諾行為についての解釈」との関係

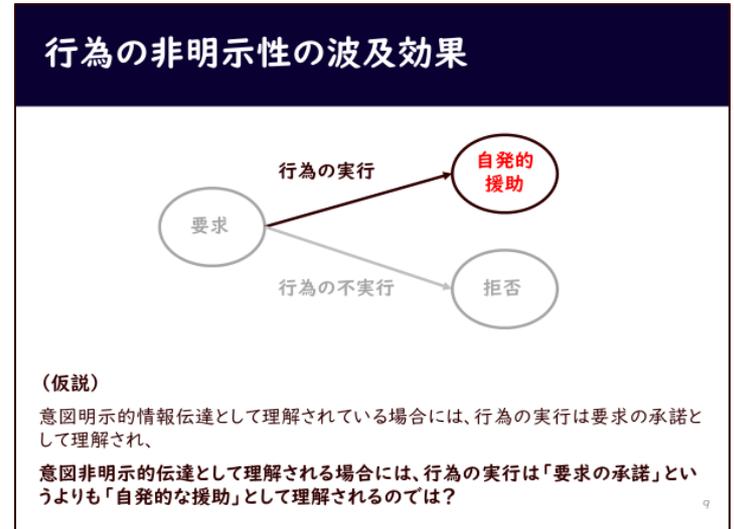
広島大学大学院人間社会科学研究科
平川 真

研究の概要

間接的要求において、

その要求意図が認識されている場合でも、聞き手の承諾行為を要求による援助として解釈しない(or 自発的援助として解釈する)ことが示された

⇒要求意図が認識されていても、要求行為が「非明示的に実行されている」可能性



間接的要求を理解するとは、その発話で要求が「間接的に」なされていると理解すること(かもしれない)



間接的発話行為 (Searle, 1975)

発話のことは通りの内容と話し手が伝えたい内容が異なる発話行為



「この部屋暑いね」という発話
(状況についての言明)によって、
「冷房をつけて」という要求を
意味している

間接的要求:

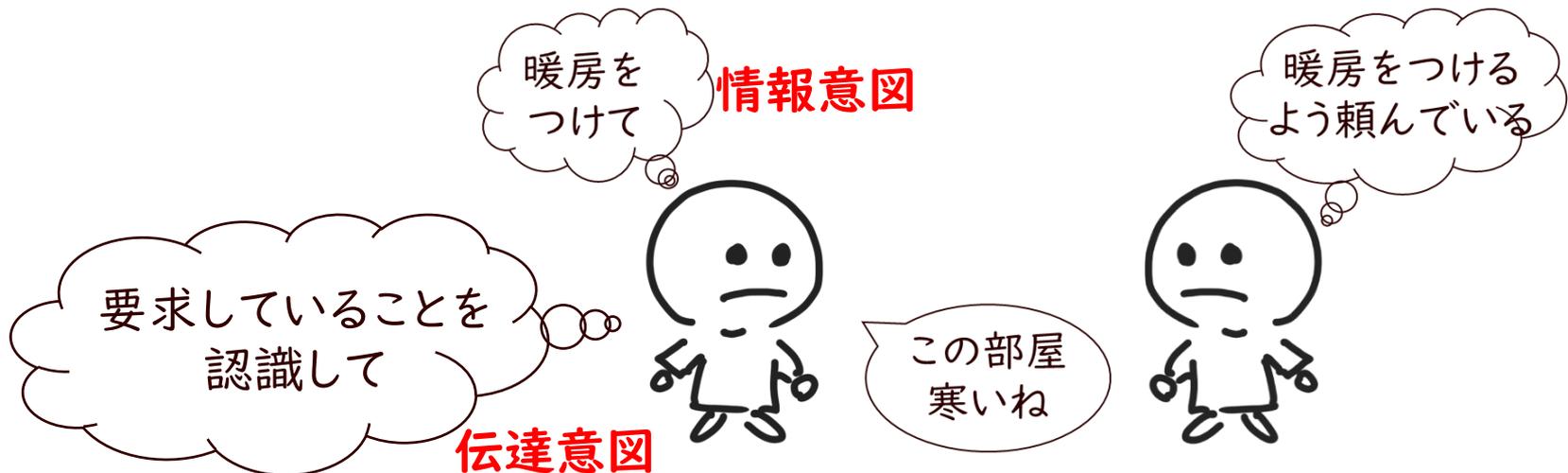
「話し手の意味」は要求だが「発話のことは通りの意味」が要求ではない発話行為

コミュニケーションにおける2種類の意図

情報意図: 聞き手に何かの内容を伝えようとする意図

伝達意図: 聞き手に情動的意図を伝えようとする意図

Sperber & Wilson (1995)



2種類の意図的情報伝達

| | 情報意図 | 伝達意図 |
|---------------------|------|------|
| 意図 明示的 情報伝達 | ○ | ○ |
| 意図 非明示的 情報伝達 | ○ | × |

情報意図がない場合=伝えたい内容を持っていない

⇒そもそも、意図的情報伝達の範疇に入らない

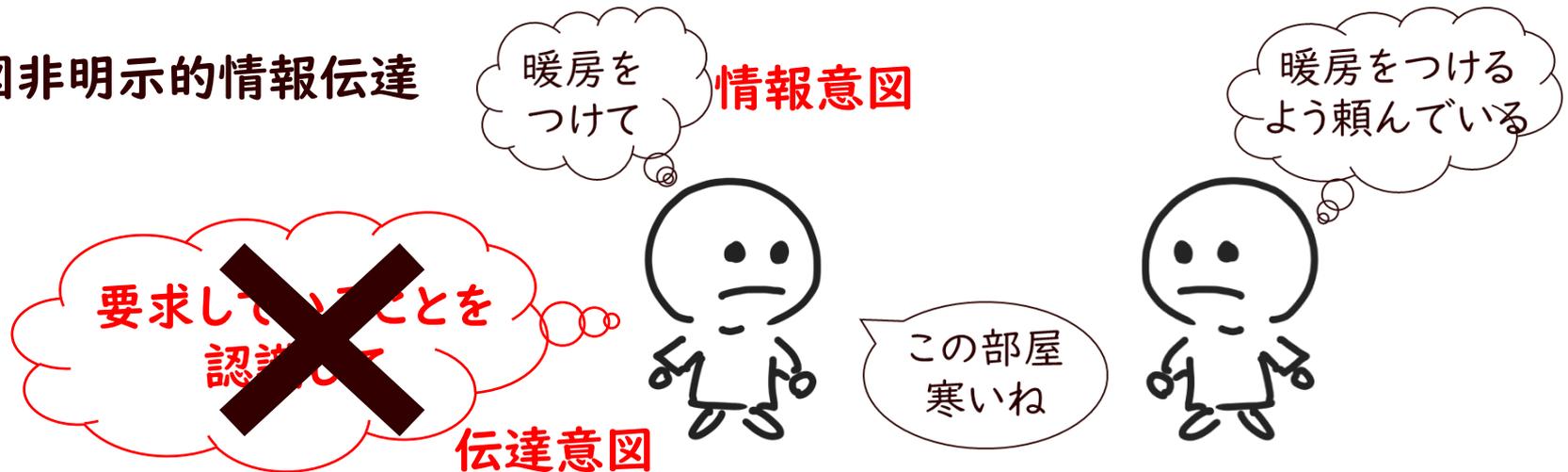
伝達意図の有無によって、2種類の意図的情報伝達を区別することができる

間接的要求の場合で例示

意図明示的情報伝達



意図非明示的情報伝達



間接的要求を理解するとは？

その発話で「要求がなされている」と理解すること？

⇒間接的要求を理解した状態は、
直接的要求を理解した状態と同じ



その発話で要求が「間接的に」なされていると理解すること？

⇒間接的要求を理解した状態は、
直接的要求を理解した状態と異なる



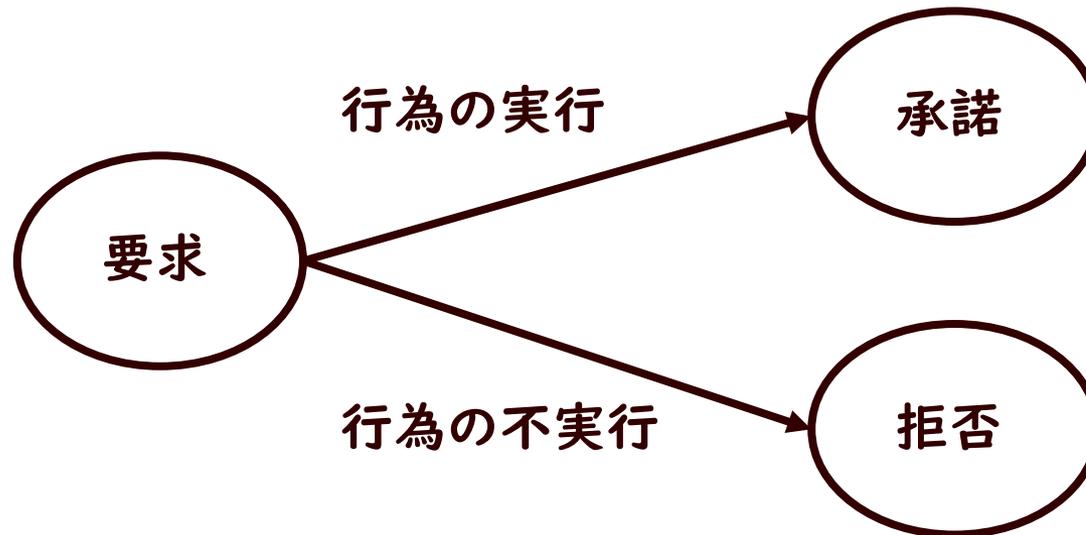
問題意識

間接的要求を理解する際に、それは、意図明示的情報伝達として理解されているのか、意図非明示的情報伝達として理解されているのか

要求の後の聞き手の行為の意味づけに、要求が意図明示的に実行されているか、意図非明示的に実行されているかの理解が影響すると想定して、研究を実施

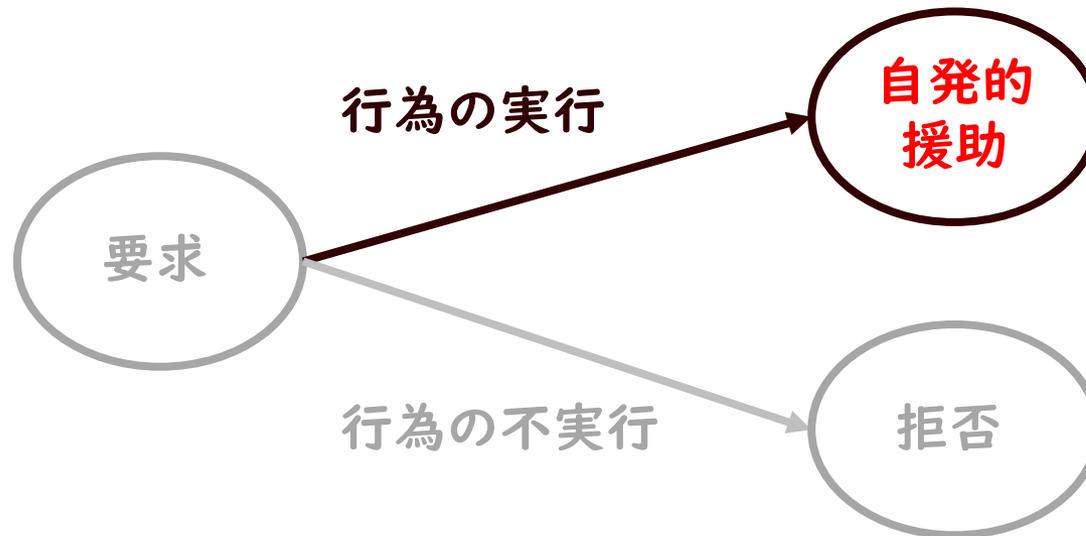
要求における行為のシーケンス

要求: その行動が実行されると話し手に利益がある行動を、聞き手に指示する行為



要求の後の聞き手の状態は、指示された行為を実行するか実行しないか
⇒これらの状態をそれぞれ「要求の承諾」と「要求の拒否」として解釈

行為の非明示性の波及効果



(仮説)

意図明示的情報伝達として理解されている場合には、行為の実行は要求の承諾として理解され、

意図非明示的伝達として理解される場合には、行為の実行は「要求の承諾」というよりも「自発的な援助」として理解されるのでは？

話し手が意図した内容の理解は必要

単純に自発的援助解釈を意図非明示的情報伝達として解釈したことの指標にすることはできない

←「話し手が頼んでいる」という理解が成立していなければ、そもそもの要求を理解していないことが理由で、「自発的に行為した」という解釈が成立すると考えられるため

| | 聞き手は頼まれて行為したと解釈 | 聞き手は自発的に行為したと解釈 |
|------------------|-----------------|-----------------|
| 話し手は頼んでいるという理解あり | 意図明示的情報伝達として理解 | 意図非明示的情報伝達として理解 |
| 話し手は頼んでいるという理解なし | | 単に援助行為を理解 |

「頼んでいるという理解が成立」 and 「自発的に援助したと解釈する状態」が、「意図非明示的情報伝達として要求を理解した」とみなせる状態（と想定）

検討点

間接的要求の解釈率と自発的援助解釈率の関連を検討

間接的要求の解釈率=話し手が頼んでいると理解する程度

自発的援助解釈率=間接的要求場面における援助を自発的だと理解する程度

仮説:

間接的要求が意図明示的情報伝達として理解されているのであれば、両者に強い関係がある

*話し手の意図理解に基づいて、聞き手の行為解釈が決定されるなら、「話し手が頼んでいる」と解釈する場合は、「聞き手の援助が自発的」と解釈しない

間接的要求が意図**非**明示的情報伝達として理解されているのであれば、両者に乖離が生じる

方法

調査対象者：webアンケートモニタ300名

2020年3月12日～3月16日

聞き手の行為についての解釈の測定

会話場面の呈示

以下の会話場面をよく読み、場面を想像して次の設問にお答えください

AさんはBさんと同じ部屋にいます。部屋のカーテンがあいていて、Bさんは窓際にいます。
Aさんは「少しまぶしいね」と言いました。
すると、Bさんはカーテンをしめました

「頼まれて」行為をしたという解釈が正しいと思うかを判断

Q2_A

Bさんは、Aさんに頼まれて、カーテンをしめた。

この解釈は正しいと思いますか?間違っていると思いますか?

回答に正解はありません。あなたがどのように思うかをありのままにお答えください。

- 1 正しいと思う
- 2 間違っていると思う

聞き手の行為についての解釈の測定

「頼まれて」行為をしたという解釈についての後に呈示

「**自ら進んで**」行為をしたという解釈が正しいと思うかを判断

Q2_B

Bさんは、自ら進んで、カーテンをしめた。

この解釈は正しいと思いますか?間違っていると思いますか?

回答に正解はありません。あなたがどのように思うかをありのままにお答えください。

- 1 正しいと思う
- 2 間違っていると思う

「頼まれて」行為した判断⇒「自ら進んで」行為した判断の順で、
7場面(+2直接的要求場面)について判断させた

解釈傾向の測定

会話場面（7間接的要求場面+2直接的要求場面）を呈示し、

「その発話を要求として解釈することが妥当だと思うか」の判断をさせる

***先の聞き手の行為についての解釈を測定した場面とは「異なる」**

以下の会話場面をよく読み、場面を想像して次の設問にお答えください

高校生のAさんとBさんが、授業が始まる前に雑談をしています。
Aさんは「今日、筆箱忘れちゃったんだよね」と言いました。

発話

Q11

AさんはBさんに、筆記用具を貸してくれるように頼んでいる **要求としての解釈**

この解釈は正しいと思いますか?間違っていると思いますか?

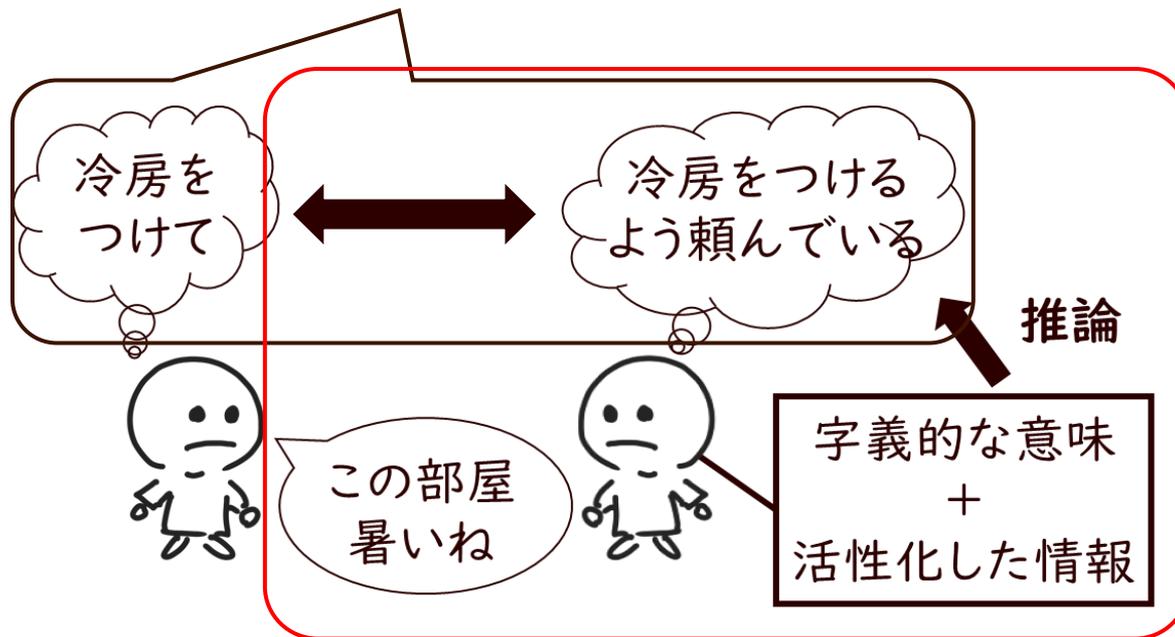
回答に正解はありません。あなたがどのように思うかをありのままにお答えください。

- 1 ○ 正しいと思う
- 2 ○ 間違っていると思う

妥当性判断

(補足) 測定しているのは解釈傾向 (バイアス)

いわゆる「正しく理解する能力」を測定しているのではない



ある発話から要求の解釈が話し手の意味だと判断する傾向を測定

要求の解釈にバイアスがかかっている人は、
呈示された発話に対する要求の意味を妥当だと判断しやすいだろうし、
日常的に間接的な要求の意味を解釈しがちであろう、と想定

データ除外基準

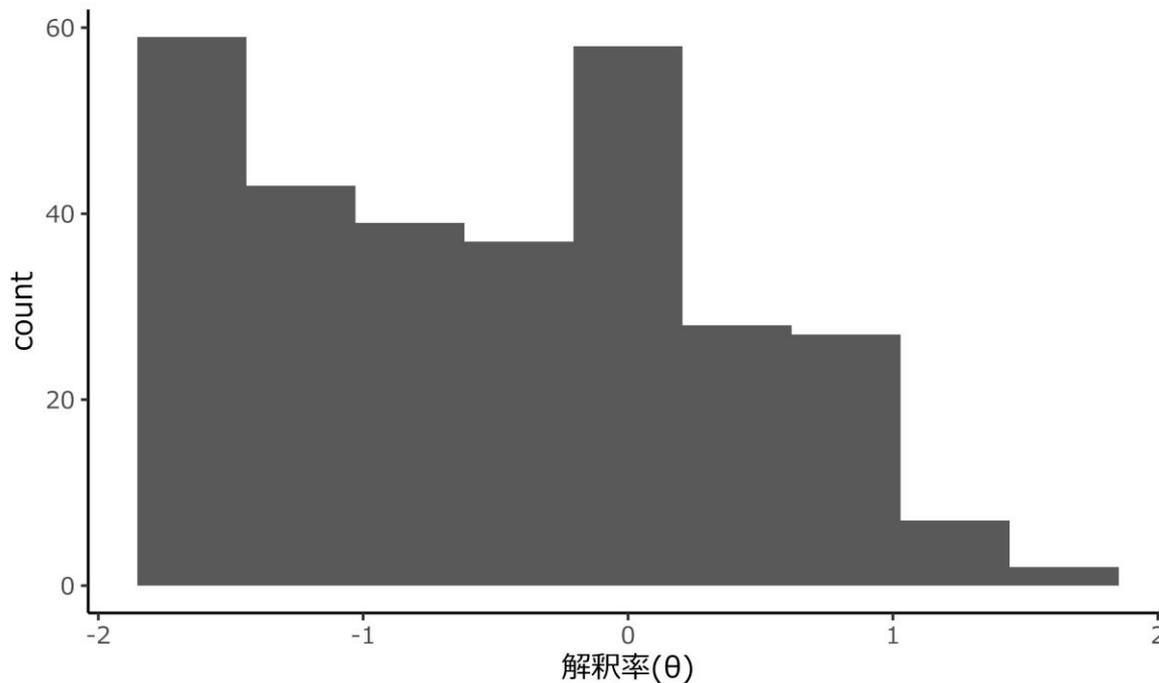
- 1) 直接的要求場面の聞き手の行為についての解釈の質問に対して、
「頼まれて」行為したという解釈が「間違っていると思う」と判断した人、
「自ら進んで」行為したという解釈が「正しいと思う」と判断した人
- 2) 直接的要求場面での要求解釈の質問に対して、
要求としての解釈が「間違っていると思う」と判断した人
- 3) 回答時間が3分未満の人

*1の基準は不適切だったかもしれないと思いました。1の基準を外して、追試しよう
と思っています。

結果

要求の解釈傾向の推定

900名を対象とした別のweb調査で推定した識別力と困難度の推定値を使用し、各参加者の要求解釈傾向を2母数ロジスティックモデルで推定

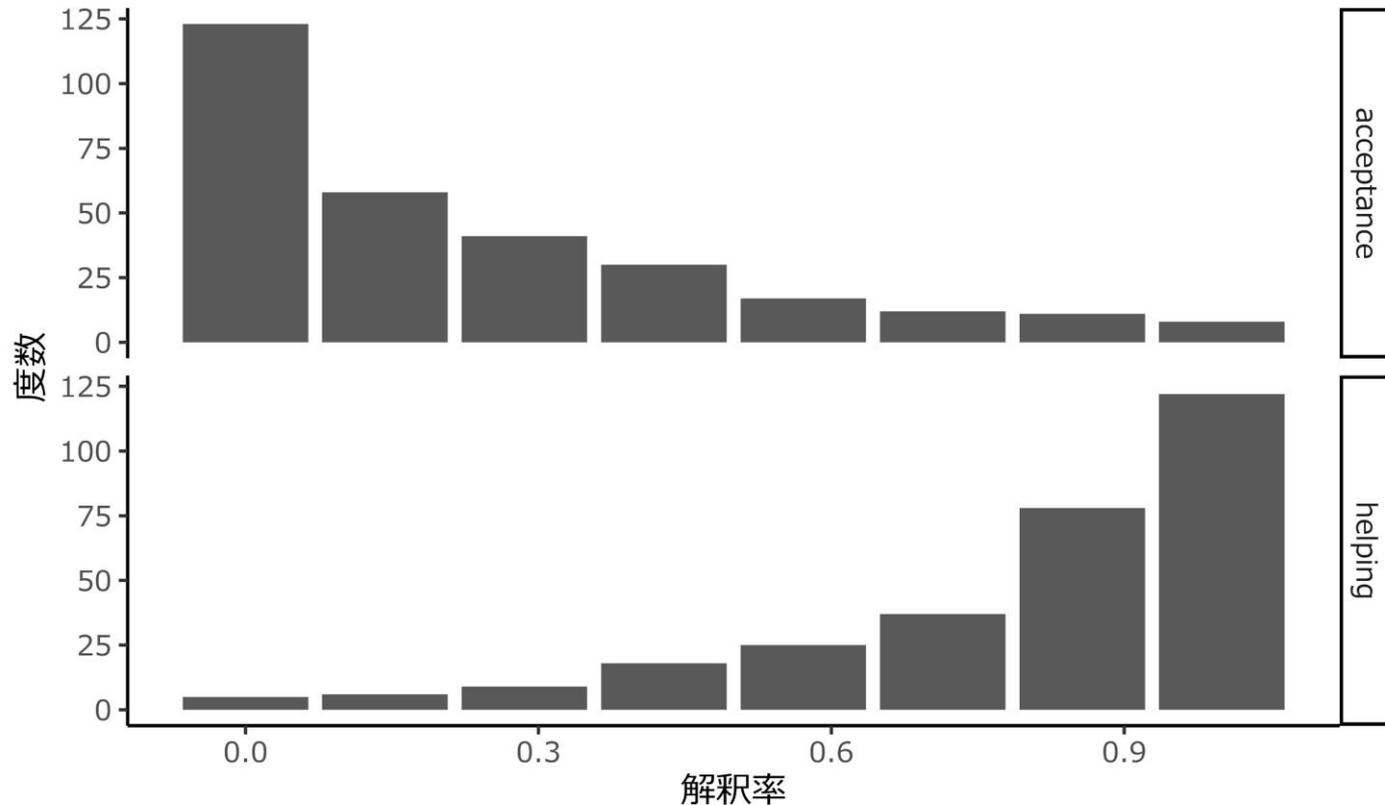


| | Mean | SD |
|----------|-------|------|
| θ | -0.51 | 0.79 |

⇒今回の参加者は、平均的に要求解釈傾向が低い

データ除外基準の1の基準によって、バイアスが生じたのかもしれませんが。

聞き手の行為についての解釈



「頼まれて」行為したという解釈は成立しにくい (平均解釈率0.23)

「自ら進んで」行為したという解釈は成立しやすい (平均解釈率0.80)

聞き手の行為を解釈する場面での、要求解釈の成立確率の予測値を算出

集団レベルの要求の解釈傾向(θ_{group})を推定

$$p(y_{i,j} = 1) = \frac{1}{1 + \exp(-a_j(\theta_i - b_j))}$$

$$\theta_i \sim Normal(\theta_{group}, 1)$$

θ_{group} の事後分布を用い、聞き手の行為について

の解釈を測定する場面における、要求解釈をする

確率についての集団レベルの予測値を算出

$$p(y_j = 1) = \frac{1}{1 + \exp(-a_j(\theta_{group} - b_j))}$$

解釈傾向の測定

会話場面(7間接的要求場面+2直接的要求場面)を呈示し、「その発話を要求として解釈することが妥当だと思うか」の判断をさせる

***先の聞き手の行為についての解釈を測定した場面とは異なる**

以下の会話場面をよく読み、場面を想像して次の設問にお答えください

高校生のAさんとBさんが、授業が始まる前に雑談をしています。Aさんは「今日、筆箱忘れちゃったんだよね」と言いました。 **発話**

Q11

AさんはBさんに、筆記用具を貸してくれるように頼んでいる **要求としての解釈**

この解釈は正しいと思いますか?間違っていると思いますか?
回答に正解はありません。あなたがどのように思うかをありのままにお答えください。

- 正しいと思う
- 間違っていると思う

妥当性判断

22

聞き手の行為についての解釈の測定

会話場面の呈示

以下の会話場面をよく読み、場面を想像して次の設問にお答えください

AさんはBさんと同じ部屋にいます。部屋のカーテンが閉まっていて、Bさんは窓際でいます。Aさんは「少しまぶしいね」と言いました。すると、Bさんはカーテンをしめました

「頼まれて」行為をしたという解釈が正しいと思うかを判断

Q2_A

Bさんは、Aさんに頼まれて、カーテンをしめた。

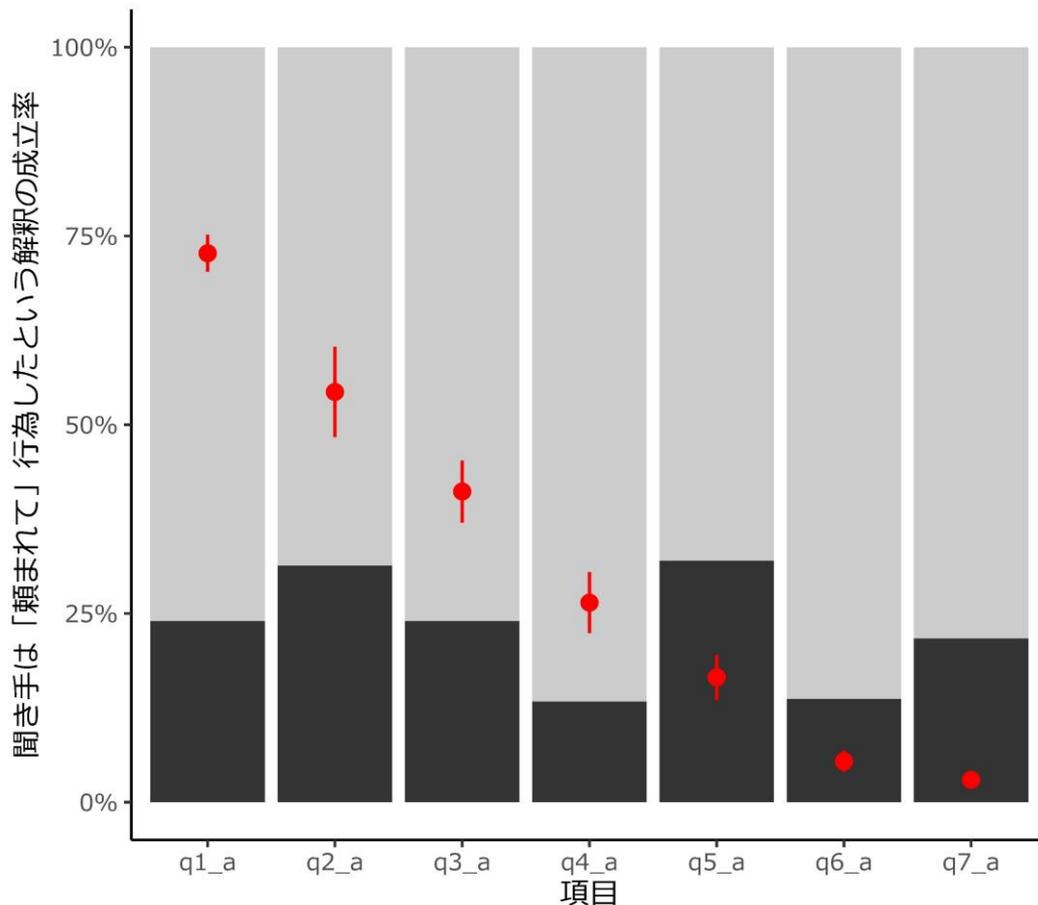
この解釈は正しいと思いますか?間違っていると思いますか?
回答に正解はありません。あなたがどのように思うかをありのままにお答えください。

- 正しいと思う
- 間違っていると思う

3

聞き手の行為についての解釈率（場面別）

「頼まれて」行為したという解釈の成立率



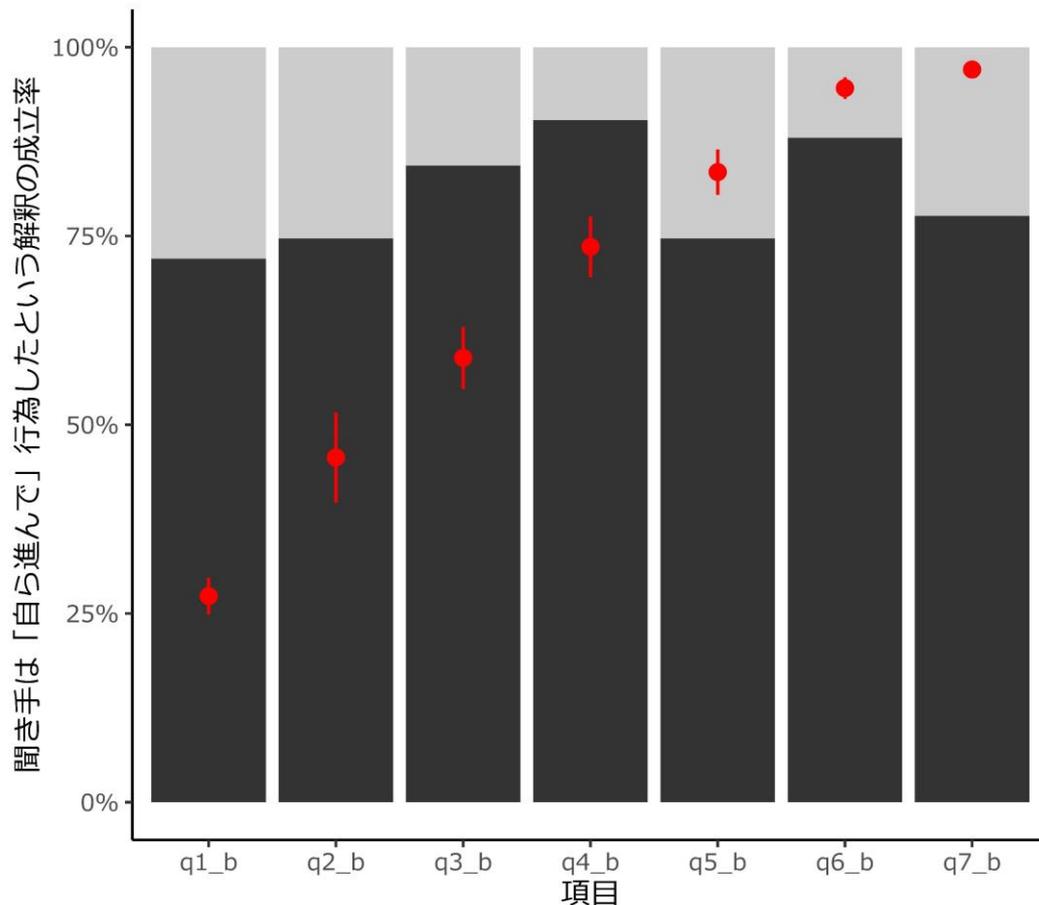
Fig中の赤丸とバーは、参加者が各場面の発話を、要求として解釈する確率の予測値と95%予測区間を示す

話し手が要求しているという認識が成立しやすい場面（左4つ）においても、「頼まれて」行為したという解釈が成立しにくい

話し手は頼んでいることを理解しながらも、聞き手の行為は要求の承諾として解釈しない、ということを示唆

聞き手の行為についての解釈率（場面別）

「自ら進んで」行為したという解釈の成立率



Fig中の赤丸とバーは、参加者が各場面の発話を、要求として解釈しない確率の予測値と95%予測区間を示す

話し手が要求していないという認識が成立しやすい場面（左4つ）においても、「自ら進んで」行為したという解釈が成立しやすい

話し手は頼んでいることを理解しながらも、聞き手の行為を自発的な援助として解釈する、ということを示唆

表で示す（別サンプルの認識率を追加）

| | 要求による援助 としての解釈率 | 自発的援助 としての解釈率 | 今回のサンプルでの 要求意図の認識率の 予測値 | 別サンプルでの 要求意図の認識率 |
|-----|--------------------|------------------|-------------------------------|---------------------|
| 場面1 | 0.24 | 0.72 | 0.73 | 0.80 |
| 場面2 | 0.31 | 0.75 | 0.54 | 0.73 |
| 場面3 | 0.24 | 0.84 | 0.41 | 0.60 |
| 場面4 | 0.13 | 0.90 | 0.26 | 0.53 |
| 場面5 | 0.32 | 0.75 | 0.17 | 0.40 |
| 場面6 | 0.14 | 0.88 | 0.05 | 0.23 |
| 場面7 | 0.22 | 0.78 | 0.03 | 0.12 |

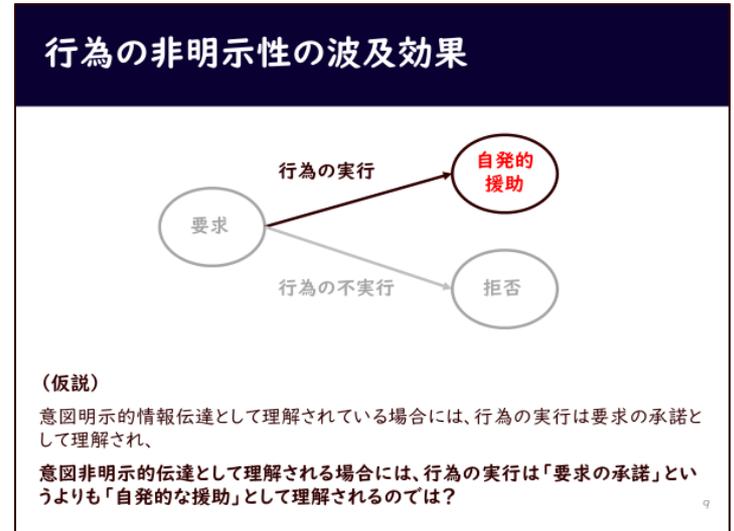
要求意図が認識しやすい場面でも、認識しにくい場面でも、
「頼まれて行為した」という解釈は成立「しにくく」
「自ら進んで行為した」という解釈が成立「しやすい」

まとめ

間接的要求において、

その要求意図が認識されている場合でも、聞き手の承諾行為を要求による援助として解釈しない(or 自発的援助として解釈する)ことが示された

⇒要求意図が認識されていても、要求行為が「非明示的に実行されている」可能性



間接的要求を理解するとは、その発話で要求が「間接的に」なされていると理解すること(かもしれない)



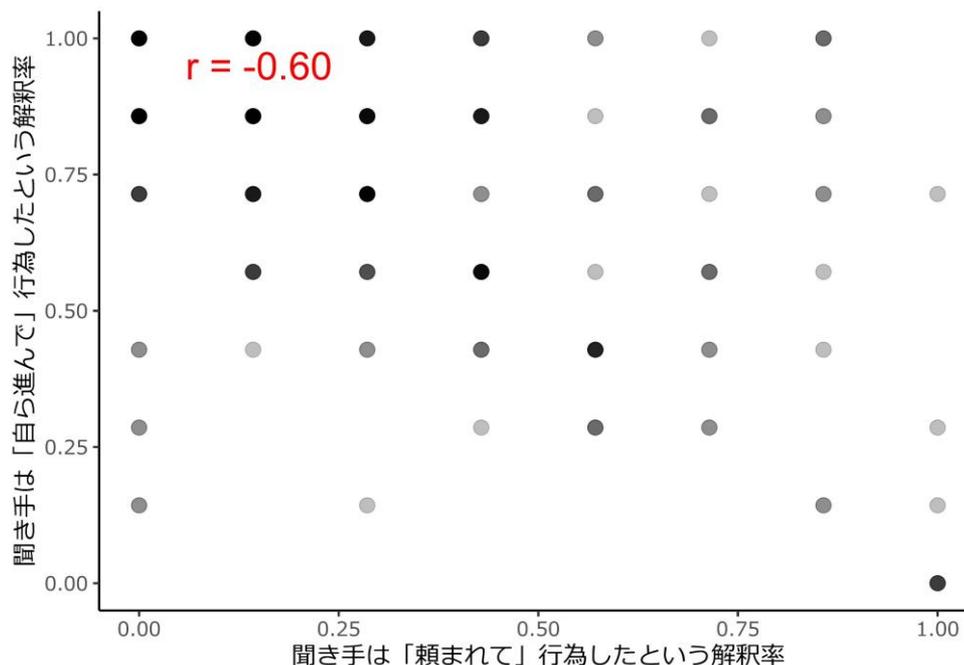
聞き手の行為についての解釈の個人間相関 (補助資料1)

「頼まれて」行為したという解釈率と「自ら進んで」行為したという解釈率の相関

⇒「頼まれて」行為したと解釈する人は、「自ら進んで」行為したと解釈しにくい

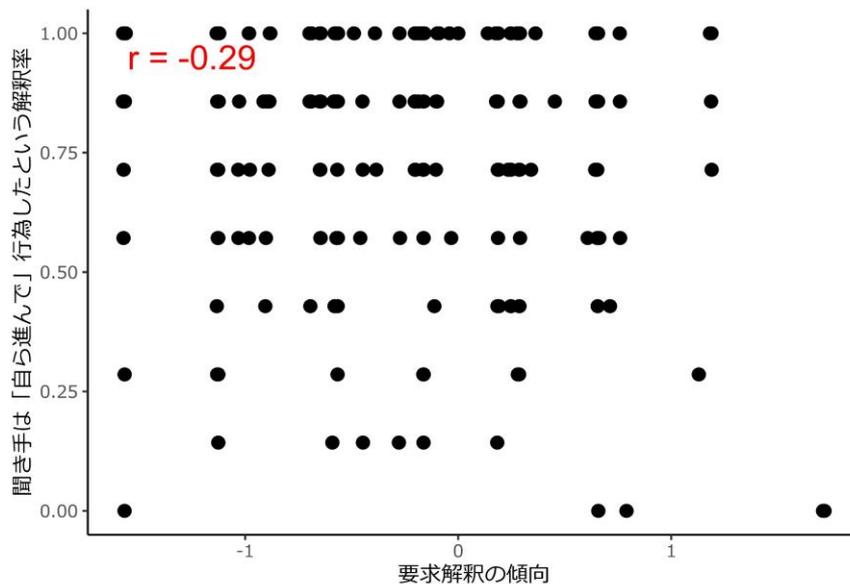
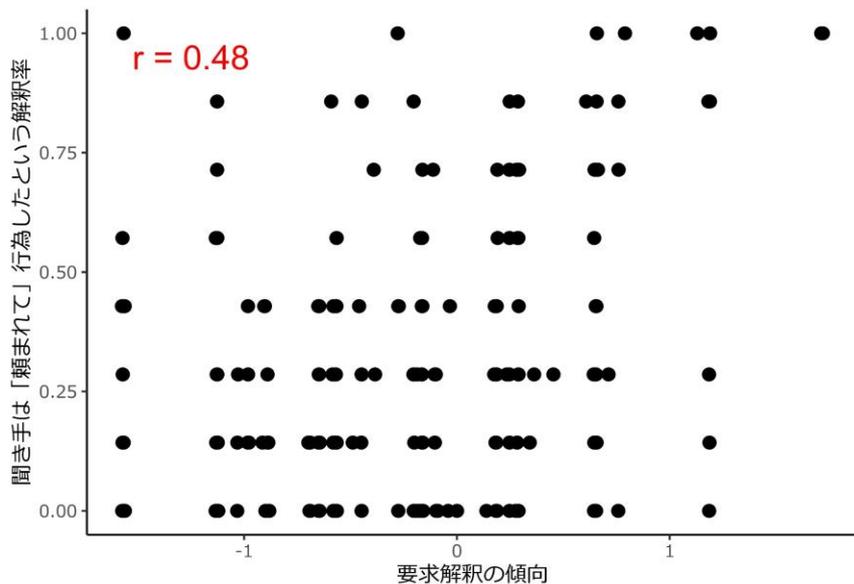
個人的には、両者は論理的な逆転関係にあると考えていて、ほぼ-1の相関係数が得られると予測していました。

「自ら進んで行為した」という判断は、いろいろな要素を含んでいるのだと思います。(まだ整理できていませんが)。



要求解釈と聞き手の行為についての解釈の個人間相関（補助資料2）

解釈傾向が高い個人ほど、「頼まれて」行為したという解釈が成立しやすく、「自ら進んで」行為したという解釈が成立しにくい



非明示的行為として間接的要求が理解されている場合、要求の解釈傾向と聞き手の行為解釈の関連は弱くなると想定されますが、この値がどの程度かについての解釈は難しいです。また、前スライドと同じく、2つの指標で相関係数の値が異なることは予想していませんでした。